

競技注意事項

『必読：コロナ感染対策を踏まえた、選手・関係者の動きと注意・連絡事項』を読み、各々ができるコロナ感染症対策をしっかりと取った上で、この記録会に参加するようお願いいたします。

1. 競技規則について

2022年度日本陸上競技連盟競技規則および本記録会申し合わせ事項により実施する。また、日本陸上競技連盟の陸上競技活動再開についてのガイダンス「【最新版】」に基づいて実施する。靴底の厚さについては、ソールの最大の厚さが次の厚さを超えないこと。【TR5】
トラック種目 800m未満：20mm 800m以上：25mm フィールド種目：20mm

2. TICについて：競技場正面玄関ホールに設置する。

- (1)『様式B 欠場届け』『様式C リレーオーダー用紙』『様式D プログラム訂正用紙』は当日受付と一緒に提出するが、それ以後提出する場合はTICに提出する。
- (2) TIC で靴底の測定をあらかじめうけておくと、招集時にスムーズにいきますので、ご協力をお願いします。
- (3)各種問合せ、落とし物の対応など。
- (4)プログラム販売(1冊400円)

3. 招集について

- (1)招集は100mスタート後方のゲートより入り、招集所にて行う。移動の仕方については別紙1、別紙2を参照すること。
- (2)招集の際、ユニフォーム、アスリートビブス(ナンバーカード)、競技時に使用するスパイクのチェックをする。また、トラック種目で、スパイク以外のシューズを使用する場合は、靴底の厚さを計測する。
- (3)ランニングパンツとスパッツを併用(重ね着)する際はどちらかの商標を隠す。できればランニングパンツとスパッツの併用(重ね着)は控え、どちらか一方のみの着用としたい。
- (4)必ず本人が招集を受けることとし、代理人による招集は認めない。ただし、リレーと個人種目の競技と招集が重なる場合は、その旨を競技者係の審判に伝える。
- (4)トラックの横断は、細心の注意を払うこと。
(横断可能な場所は、別紙2を参照のこと)

4. アスリートビブス(ナンバーカード)、腰ナンバー標識

- (1)アスリートビブスは各校(各選手)で持参し、そのままの大きさと胸と背部に確実に固定する(跳躍競技については胸または背部どちらかでよい)。
- (2)必ずプログラムに記載されたナンバー(登録ナンバーと同一)が記載されたカードを用いる。
- (3)800m、1500m、3000mの競技者は、自分のアスリートビブス(ナンバーカード)を胸と背に固定するとともに、招集時で腰ナンバー標識を受け取り、パンツ右側の上部、やや後ろにつける。なお腰ナンバー標識はシール式のため返却はしない。

5. 競技方法について

(1)トラック競技

- ①レーン順はプログラム記載の通りとする。
- ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走る。
- ③不正スタートは1回で失格とする。

(2)フィールド競技

- ①試技順はプログラム記載の通りとする。
- ②フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ③跳躍種目の競技者は、助走路の外側に主催者が用意した規定のマーカーを2個まで置くことができる。走高跳は競技者が準備したマーカーを助走路内に2箇所まで置くことができる。
- ④砲丸投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを1つだけ置くことができる。これらの撤去は使用した競技者が責任をもって行う。
- ⑤走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、当日決めることとする。
- ⑥棒高跳および砲丸投に使用する滑り止め用の炭酸マグネシウムは共有しない。希望者には競技場所にて少量渡すので、それを使用する(複数名で使いまわしはしない)。

(3)リレー競技

- 4×100mリレーの競技者は、自らが用意した大きさが最大 50mm×400mm の粘着テープを1箇所、自らのレーン内に貼ることが許される。それ以外のマーカーの使用は認められない。その撤去は使用したチームが責任をもって行う。

(4)抗議

- 競技会進行中に起きた競技者の行為、または記録に関する抗議は、正式結果が発表(アナウンス)されてから30分以内(次のラウンドがある場合は15分以内)に、その種目に出場した競技者自身または代理人が「TIC」まで申し出る。

(5)助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出た上で、競技役員の指示に従って行動しなければならない。
- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③顧問等からの助言は競技場区域外(メインおよび芝生スタンド)のみとし、コーチングエリアは設けない。その際、そこで録画した映像を見せることは助力にはならないが、録画した機材(スマートフォン・ビデオカメラ等)を競技区域内にいる競技者が手に持って見た場合は助力とみなし、該当の競技者は警告され、同行為を繰り返すと失格の対象となる。

6. その他

- (1)競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポールは、個人所有のものを使用できる。
- (2)スパイクピンの長さは、9mm以内とし、走高跳は12mm以内とする。
- (3)選手は観戦・応援はせず、自分の競技が終了したら、速やかに帰宅すること。
- (4)ゴミは、各自持ち帰ること。
- (5)プログラムに記載されている個人情報、大会運營業務以外には使用しない。ただし、競技成績は、長野陸上競技協会のホームページに掲載されることがある。
- (7)盗難事象が発生することがあるため、各校待機場所が無人にならないようにするなど、学校毎に管理をお願いしたい。
- (8)本記録会で盗撮行為があった場合は適切な処置をとります。おかしいと思う撮影を見かけた場合はTICへ連絡してください。